

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名		佐賀県立武雄高等学校	達成度(評価) A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・学力の向上については、概ね目標を達成することができた。次年度も電子黒板や学習用PCを有効に活用し、わかりやすい授業を実践していきたい。大学入試の結果についても概ね目標を達成することができた。次年度も大学入試問題研究や教材研究を充実させて教職員の教科指導力の向上を図り、生徒の進路希望の実現に努めていきたい。 ・心の教育、健康・体力づくりについては、概ね目標を達成することができた。次年度も自他の生命を尊重する心や他者への思いやり、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図ってきたい。いじめについては、すべての職員が基本方針を理解し、それに基づいて行動できるよう職員研修を充実させた。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、概ね目標を達成することができた。次年度も目標達成に向けてより効果的な取り組みを検討し、業務改善、働き方改革を推進していきたい。 ・魅力と活力ある学校づくりについては、武雄市とのまちづくり参画事業や探究活動を通した研究発表など、地域の現状と課題に目を向けた活動ができた。次年度も地域との協働活動に取り組み、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献していきたい。		
2 学校教育目標	高い志と未来を切り拓く力を持ち、多様な人々と協働しながら、持続可能な社会の実現を目指して、地域や国際社会が抱える課題解決に向けて主体的に行動できる人間性豊かな人材を育成する。		
3 本年度の重点目標	① 生徒一人一人へのリスペクトに培い、自主性・主体性・自立性を育む教育活動を推進する。ア:生徒主体の学校行事・部活動等を実施する。イ:各教科等において生徒指導の3機能(自己決定の場・自己存在感・共感的な人間関係)を踏まえた授業を実践する。 ② 自分の興味関心のある分野について"深掘り"する力の育成を中核に据えた教育活動を推進する。ア:総合的な探究の時間等を中心として探究活動の基本的なスタイルを修得させる。イ:地域や外部機関と連携した取組への積極的参加により探究力を向上させる。 ③ 全職員による敬愛と共感的理解に基づき学校課題の解決に向けた共通理解と共通実践を推進する。ア:SAGAスマート・ラーニング事業及び普通科改革に対して創造的な取組を提案する。イ:広報活動への意識を鋭敏にし、中学生に選ばれる学校づくりを展開する。		

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒の探究力養成	○各教科で育成する学力に培う探究活動の充実度 ・地域や国際社会に解決したい問題があると思う生徒の割合…70% ・探究活動の基本的なスタイルを理解していると思う生徒の割合…70%	・各教科の学習内容が現代社会とどのようにつながっているのか主体的に意識できるよう指導改善を図る。 ・探究活動に関する講義や実践をとおして探究の基本型(課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現)の理解と修得を図る。	A	・地域や国際社会に解決したい問題があると思う生徒の割合:89% ・探究活動の基本的なスタイルを理解していると思う生徒の割合:82% ・「探究Ⅱ」や校外活動への熱心な取り組みからも、地域や国際社会の問題に対する関心は高いと感じている。	A	・地域や国際社会に解決したい問題があると思う生徒の割合が高いことは大変評価できる。 ・生徒たちの探究活動に対する意識の高さは素晴らしいと思う。これからも探究力の養成に努めてほしい。	教務・進路・企画 研修
	○教職員の指導力向上	○生徒を主体とした適切な指導の実施状況 ・各教科等の授業において探究的な活動を仕組むことができた教員の割合…70% ・総合的な探究の時間等において生徒を主体とした学びの支援ができた教員の割合…70%	・各教科等の時間において定期的に探究的な活動を配置することにより基礎学力の必要性を実感させる。 ・総合的な探究の時間等において生徒の問題意識に寄り添いながらコーディネーターとして伴走的な支援を継続する。	B	・各教科等の授業において探究的な活動を仕組むことができた教員の割合:55% ・総合的な探究の時間等において生徒を主体とした学びの支援ができた教員の割合:88% ・中高授業研修会を通し、より充実した授業を展開しようという意識が高くなっており、来年度以降も研修を継続していきたい。	B	・通常の授業に加えて探究活動も指導するのは大変だと思うが、生徒の知的好奇心や探究力を高めることは大切なので今後も積極的に取り組んでほしい。 ・県西部の伝統ある中高一貫校としての評価は高い。これからも中高6年間を見据えた学力向上と人間力育成に期待している。	教務・進路・企画 研修
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○ホームルーム活動や校外活動を通して、他者への思いやりやの心を育てる。校外活動に参加した生徒を1・2年生の50%以上にする。 ○人権教育の全体教育に基づいて授業(人権・情報モラル)を行った教員を80%以上にする。	・ホームルーム活動の時間に具体的なテーマを設定してクラス討議を行う。 ・校内外の体験活動の意義を明確にし、関連する情報を提供して、生徒の参加意欲を引き出す。	B	・校外活動に参加した1・2年生の割合:35% ・人権教育の全体教育に基づいて授業(人権・情報モラル)を行った教員の割合:93% ・校外活動への意欲は高く、機会も増えていると思うが、参加できる人数は限られているのが現状である。	B	・学習や部活動だけではなく、校外活動にも積極的に参加し、様々な体験をしてほしい。 ・コロナ禍後の「新しい生活様式」での武陵祭は、生徒たちの自主的で自発的な活動状況が見られてよかった。	企画研修部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上にする。	・学校行事や部活動において、生徒自身が集団との一体感を持てる取組を工夫することで共感的な風土を醸成する。 ・「いじめはどの学級でも、どの生徒にも起こり得る」という視点を常にもち、日々の観察、学校生活アンケートの活用、面談等により、いじめの早期発見に心掛け、いじめが認知された時は組織として迅速かつ厳正に対応する。 ・心の教育を通して思いやりや心を育成する。	B	・いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員の割合:93% ・いじめアンケートを6月と11月に行い、気になる生徒については担任、学年主任で面談を行い、内容の把握に努めた。その後、校内いじめ対策委員会を開催し、今後の対応等について協議した。今年度のいじめの認知事案は7件となっている。	B	・自立活動の視点から子どもを理解することが一層求められている。「みんな違っていい!」「どの一人(子)も大切に!」「子どもたちはみな一人ひとり違う存在である」という発想が大切だと思う。 ・アンケート等によるいじめの把握が行われ、いじめの早期発見と解決に対する取組が組織的になされている。引き続き、いじめの早期発見と早期対応に努めてほしい。	生徒指導部
	○教育相談体制の充実	○教育相談室の積極活用で、年間30日以上欠席者数を15名未満にする。 ○生徒が授業に行けるようになることを目標とした支援を工夫し、欠課数を減らす。	・SCの活用や教育相談、特別支援教育を通して職員間の共通理解を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができる方策を図る。 ・生徒の困り感に寄り添いながら教室に入れない生徒の支援を行う。	C	・30日以上欠席者が1年生15名、2年生13名、3年生3名となり、目標には届かなかった。教育相談体制を充実させ、不登校問題に取り組んでいきたい。 ・スクールカウンセラーの利用率は高いが、悩みを抱えている生徒が多くおり、カウンセリングを必要としている生徒にカウンセリングがいきわたっているのか、その点についての分析と対策が必要である。	B	・「心の教育」のベースは本来「家庭」で教わるべきであるが、それができていないのが実情で、そこをどうやって補っていくのか、学校と家庭が協力して取り組む必要があると思う。 ・不登校の生徒に寄り添った丁寧な支援が行われている。今後ともスクールカウンセラーとの連携など教育相談体制を充実させ、不登校問題に粘り強く取り組んでほしい。	保健厚生部
	●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○健康診断を有効活用し、健康意識の向上を図る。特に歯科・眼科の受診率35%を目指す。 ○内科的要因での保健室利用数の減少を図る。 ○校内環境美化と学びの場所(教室等)の整備に努める。	・健康診断後の治療勧告書や、保健だより、食育コーナー等の情報を発信する。 ・部活動に加入させ、心身の健全な発達を促す。 ・職員会議や教科連絡会で、欠席生徒・授業に出ることが難しい生徒の把握を全職員で行う。 ・学校全体でゴミゼロ運動(ゴミ箱の不設置・ゴミの持ち帰り)に取り組み、環境保全の意識を育てる。	A	・心臓等の要精密対象者については、個別指導を行い、受診へつなぐことができた。 ・Classiで配信するなどの工夫により、生徒の関心が保健教育に向かうよう、引き続き取り組んでいきたい。 ・毎月1回の職員会議による生徒情報の共有により、欠席の多い生徒、授業に出ることが難しい生徒の対応がスムーズにできた。今後も学年団との連絡を密に行ってきたい。	A	・健康保持のためには、体育や部活動で体を動かしたり、栄養のバランスのとれた食事や睡眠などが大切だと思う。スマホやゲーム機を使う時間を減らし、睡眠時間を確保してほしい。 ・学校では、教科学習のほか健康面や人との関わり方、他人への理解を学ぶことができる。集団での学びは、大人になって社会人としての大切な要素になると思う。
●安全に関する資質・能力の育成	●安全に関する資質・能力の育成	○生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ○規則の遵守、防犯・交通安全に関する講演会を実施し意識を高める。 ○加害としての交通事故件数0に努める。	・日々のホームルームや集会等を利用して、道徳やマナー・交通安全・情報モラル・人権意識等について講演会を実施する。 ・高校生としてふさわしい身なりを意識づけ、生活上のルールの遵守に努める。 ・警察や県生徒指導連盟からの情報提供を参考にプリント・ポスター等で防犯意識を高める。	B	・集会やHRで自転車マナーについて話をしたり、警察と連携し街頭指導などを行った。交通事故については、自動車と自転車の接触事故が3件、自転車と自転車の衝突事故が1件起こっている。 ・声かけ、痴漢などの事案が7件あり、その都度、警察と連携しながら注意喚起に努めている。	B	・生徒が安心して通学できる環境づくりのために、関係機関と連携しながら、通学路の点検、道路の安全施設の整備等を行ってほしい。 ・校則やルールづくりは、教員が細かいルールを指示するよりも生徒たち自身で考える方向で今後も取組を進めてほしい。	生徒指導部
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○年間で平均10日以上休年休取得、各種休暇の取得を奨励する。	・定時退勤日を週に1日、学校閉庁日を長期休業中に設定し、年休や休暇取得を奨励する。 ・部活動休養日の設定及び顧問が交代で部活動指導を行うことによって、時間外勤務の削減を図る。 ・職員の在校時間を把握し、時間外勤務の多い職員に業務の効率化に向けた指導を行う。	B	・夏季休業中に閉庁日を6日間設定した。年休の取得日数は平均11.0日で昨年度(9.5日)より増加した。 ・週2以上の部活動休養日は、ほとんどの部で実施することができた。 ・時間外在校等時間は月平均40時間41分で昨年度(42時間31分)より減少した。今後も、行事の見直しや業務の効率化など、働き方改革に向けた取り組みを推進していきたい。	B	・新学習指導要領の推進のためには、教員の多忙化の解消が大事で、まずは仕事量を減らす(業務の軽量化)、次に業務の効率化や業務分担の見直しが必要だと思う。 ・先生方は授業以外にも多くの業務を抱えておられる。休暇をとり、ストレス解消に取り組み、無理なく元気に過ごされることを望んでいる。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を78%以上、教職員の割合を85%以上とする。	・武雄市市民協働課のコーディネーターと連携し、まちづくり事業を進展させて地域との協働活動に取り組み、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献し、その成果を発表する。 ・上記の成果について、生徒・職員にアンケート調査を行い、改善を図る。	C	・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合:63% 教職員の割合:85% ・まちづくり活動等の地域との協働活動は熱心に行われているが、その成果が学校の魅力として伝わっていないのではと思われる。	B	・県西部の中高一貫校としての評価は高い。アンケートの結果に一喜一憂することなく、自信をもって教育活動を行ってほしい。 ・「武雄市まちづくり参画事業」の報告会は今年も大変素晴らしい内容だった。この素晴らしい取組をもっと情報発信してほしい。	企画研修部
	○広報活動の充実と志願者の増加	○体験入学の参加者を定員の180%を目標にする。また、第2回進路希望調査での志願倍率1.1倍を目標とする。	・「武雄高校だより」を定期的に発行するなど、ホームページの充実を図る。	B	・体験入学参加者は定員の167%、第2回進路希望調査志願倍率1.05倍と目標に届かなかった。特別選抜では定員の1.6倍の出願があり、本校を志望する中学生はいるはずなので、より本校の魅力が中学生に届くよう、進学説明会等を活用していきたい。	B	・生徒、職員ともに地域の期待に応え、よく頑張っていると感じている。 ・今後も広報活動の充実を図り、地域や生徒から選ばれる学校づくりに努めてほしい。	教務部
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり								

5 総合評価・ 次年度への展望	・学力の向上については、概ね目標を達成することができた。次年度も各教科の内容が現代社会とどのようにつながっているのか主体的に意識できるように探究活動の充実を図ってきたい。また、教職員の指導力の向上を図り、各教科や総合的な探究の時間等において、生徒を主体とした学びの支援を充実させていきたい。 ・心の教育、健康・体力づくりについては、概ね目標を達成することができた。次年度も自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実を図ってきたい。また、SCの活用や教育相談体制の充実を図り、生徒が円滑に学校生活を送ることができるよう支援していきたい。 ・業務改善、教職員の働き方改革については、概ね目標を達成することができた。次年度も目標達成に向けてより効果的な取組や学校行事の精選等を検討し、業務改善、働き方改革を推進していきたい。 ・唯一無二の誇り高き学校づくりについては、武雄市とのまちづくり参画事業や探究活動を通した研究発表など、実践的・体験的な活動を行うことができた。今年度は学校ホームページを充実させ、県内外への情報発信と広報活動に努めたが、入学志願者の増加には至っていない。引き続き、次年度の課題としたい。
--------------------	--